

議長を除く全議員で構成する
決算等審査特別委員会で決算議案を審査

決算等審査特別



問 病児・病後児保育の予約システムを導入し、保育の利便性向上を図った。

答 体調不良の子どもを一時的に預かる、病児・病後児保育に関するアンケートを5年に実施したが、この結果を受け、6年度はどのように取り組んだのか。

問 6年4月から、要望が多かった病児保育施設を増設したほか、10月から予約システムを導入し、利便性向上に取り組んだ。

答 6年度に、予約システムへ登録した児童数は796人だが、制度の趣旨を踏まえると、少ないと考え

利便性の向上で さらなる子育て支援の充実を

る。市はどのように認識しているのか。

答 登録児童数は、システム導入後の6年10月から7年3月までの実績で、現在はさらに増えている。今後も制度を必要とする方が登録できるよう、丁寧な周知を行っていく。



病児・病後児保育室の
利用方法や予約システムはこちら

問 高齢者・障害者に憩いの場等を提供するとともに、健康づくりを推進した。

答 6年度に保健福祉センターの東浅川と南大沢の浴室を廃止したが、両浴室事業に対する評価は。

問 浴室は高齢者等の憩いの場として設置したが、直近の利用者数は、平成30年度と比べ、約43%減少していた。利用者数の推移や

浴室を廃止 市民への対応は

答 健康増進へのニーズの高まりなどを踏まえ、一定の役割を終えたものと評価した。廃止に当たり、浴室利用者へは、どのような対応を行ったのか。

問 複数回の説明会を開催し丁寧な説明してきた。浴室の利用者だった方は、健康づくり講座や運動プログラムに参加するなど、本センターを健康づくりの拠点として利用している。

問 路線バスが運行できない交通空白地域に地域循環バス「はちバス」を運行した。

答 はちバスは、導入から23年が経過したが、利用者数等は、どのように変化したのか。

問 運行開始時と比べ、運行ルートを増やしたこともあり、利用者数は2倍以上に増加している。また、社会環境の変化を受け、近年では高齢者の利用が増加傾向にあり、6年度のシルバーパス利用率は約60%になった。

答 6年度は、地域公共交通の課題への取り組みとして、はちバスの見直しな

地域公共交通の課題解決に向けて

問 どを進めたとのことである。今後、どのように改善を図っていくのか。

答 課題であった交通空白地域のさらなる解消のため、利便性に配慮した生活密着型のルートの設定や、車両の小型化で運行エリアの拡大を図る考えである。



6年度の全ルートで利用者数が増加し、
地域公共交通を支えるはちバス

問 生ごみの減量・資源化の推進のため、生ごみ資源化モデル事業を実施した。

答 家庭系可燃ごみの約4割を占める生ごみの減量・資源化を推進するため、生ごみ資源化モデル事業を実施したが、内容について聞きたい。

問 約400世帯に参加してもらい実施した事業で、

ごみ減量への取り組みは

専用のバケツで排出された生ごみを収集した後、市内の堆肥化施設で資源化し、ごみ減量効果などを検証した。事業の参加者からは、「ごみ減量意識が高まった」「可燃ごみが半分になった」との声が寄せられた。一方で、収集経費等の課題もあったことから、今後は、さまざまな手法による資源化を目指していく。